



自衛官のノウハウを生徒が体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は12月11日（水）から13日（金）の3日間、東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部2年生の自衛隊職場体験学習を支援した。

この学習は、同校が生徒の社会性を養うことを目的に、学習先への依頼から体験後の報告までを生徒自身に行わせることで、「生きる力」の涵養と責任感を育成するために行っているもの。

1日目は、航空自衛隊浜松広報館「エアパーク」（浜松市）において空の任務について学習した。過去実際に運用されていた航空機などを見学しながら、空の警察業務である対領空侵犯措置任務や戦闘機や対空ミサイルのメカニズムについて学んだ後、T-4中等練習機のフライトシミュレーターに実際に搭乗し、操縦の難しさと大空を自由に飛ぶ楽しさを体感した。

2日目は、災害など不測事態発生時の行動を想定し、実際に生徒と広報官が生徒の自宅から学校までの約10キロを徒歩で移動した。事前に地図の見方と静岡市が作成したハザードマップを念入りに確認し、生徒自身が経路の選定とさまざまな危険見積りを行った。そして地図を片手に時折迷いながらもほぼ計画通りの時間で完歩することができた。

3日目は、静岡募集案内所（静岡市）において、陸海空それぞれの広報官から各自衛隊の特色や広報官自身が部隊において長年培ってきた救急法、ロープワーク、気象学、集団行動などを伝授した。救急法では出血時の止血法である八つ折三角巾の作り方とそれを使った患部の保護方法を体験したほか、ロープワークでは日常生活や災害時に活用できる「もやい結び」に挑戦した。

生徒は「陸・海・空の自衛官からこれまで知らなかったいろいろなことを学ぶことができ、とても貴重な経験になった。特に、通学経路上で心配される場所が実際に分かり、もし災害があったら今回のことを思い出してしっかり活かしていきたい」と話してくれた。

静岡地本は今後も、自衛官と交流できる機会を積極的に設け、自衛官という存在や仕事の魅力を深く知ってもらうとともに、若者の将来の目標となるよう努力を継続していく。

静岡地本・宮川本部長がラジオで募集広報



自衛隊静岡地方協力本部長・宮川知己一等空佐は1月8日（水）、エフエムしみず（静岡市）において、ラジオ番組「自衛T・I・M・E・S☆静岡」に出演し今年の抱負を語った。

この番組は、毎週水曜日の午前10時から、清水自衛隊友の会の提供で自衛隊のさまざまな活動を紹介。静岡市清水区を中心に放送されているほか、インターネットラジオでも聴くことができる。

宮川本部長は、着任して1年目となった昨年を「募集と援護に邁進した年」と振り返った。特に「ふじのくに」の暖かい気候と県民性に触れて静岡県にとっても愛着を持ったと話し、しかしながら県内でも少子化が進んでおり、日本を取り巻く安全保障環境はますます厳しく、台風被害等自然災害も心配される中、自衛官募集への影響をはじめ、隊員の充足率低下で今後も各種活動が心配され、日本の人口減少が「静かなる有事」と呼ばれている状況であることを伝えた。そして、今年も静岡地本の隊員が地域住民や各学校の理解・協力を得ながら、募集活動や援護活動に日々精力的に取り組んでいくと力強く語った。

最後に宮川本部長は、今年も募集活動に邁進することを新春の抱負に掲げ、自衛官採用試験へのチャレンジを呼び掛けるとともに、ホームページやツイッターでは今年も自衛隊のイベント情報を積極的に発信し、多くの方々とのふれあいを大切にしていきたいとPRした。

静岡地本は今後も宮川本部長を核として、「ふじのくに」の県民に自衛隊の活動をさらにアピールし、自衛官への親近感向上を目指して広報活動に邁進していく。